

もう一つの及川コレクション

—及川尊雄氏収集紙媒体資料—について

前原 恵美(東京文化財研究所)

橋本 かおる(東京藝術大学)

鎌田 紗弓(東京大学)

曾村 みずき(東京藝術大学大学院)

及川鳴り物博物館(2003-2015年)館長を勤めた及川尊雄氏(1942-2018年)は、日本の楽器や生活の中にある「鳴るもの」(これらを及川氏は「鳴り物」と呼ぶ)、楽器製作に使用する道具などの収集家として知られる。その3000点以上に及ぶコレクションの一部は『阿弗利加(あふりか)から旅して来た日本の楽器たち 音の図書館をめざして』(及川鳴り物博物館、2018年)に図版(約1600点)として収められたが、同書には、及川氏が集めた「鳴り物」に関する紙媒体資料も多数掲載されている。

このたび報告者4名は、及川氏のご家族にご理解とご協力をいただき、これらの紙媒体資料の概要調査を行う機会を得た。調査した紙媒体資料は書籍、手書きのメモや図面、書状や手紙、譜本、版本など、形態も分野も様々で、3000点を優に超えた。本発表では、まずその調査概要を報告する。さらに、調査の過程でコレクションの特徴として浮かび上がってきた具体的な4つの観点、すなわち1.佐竹藤三郎関係資料(橋本)、2.堀川久民・師克関係資料(鎌田)、3.今村権七関係資料(前原)、4.近代琵琶関係資料(曾村)、からそれぞれ発表を行う。1.では雅楽器販売、製作・修理を手掛ける「佐竹招慶堂」から及川氏が譲り受けた、佐竹藤三郎に関する一連の資料に注目する。2.では雅楽関係資料より、堀川父子の伝授・奏楽活動の一端を示す資料群をとりあげる。3.では、資料整理の過程で散見した箏・三味線製作・修理・販売の「今村権七」を追う。4.では『琵琶新聞』をはじめとする近代琵琶の機関誌に着目する。これらの発表を通して、「鳴り物」そのものに留まらない、研究的示唆に富んだ及川氏の紙媒体資料の特徴を、部分的にであれ明らかにしたいと考えている。

なお、今回調査した資料に上記4つの小稿を加えた目録を、2020年3月に東京文化財研究所より刊行予定である。